

横河ブリッジホールディングス



高田氏

社長に高田氏

昇格する人事を発表した。藤井久司社長は代表権のある会長に就く。いずれも6月25日付。高田氏は引き続き横河ブリッジ社長を兼務する。

横河ブリッジホールディングスは4月20日、取締役の高田和彦氏(横河ブリッジ社長)が社長に

作所(現横河ブリッジホールディングス)入社。05年横河ブリッジ技術本部技術研究所長、11年横河ブリッジホールディングス取締役兼横河ブリッジ取締役、16年横河ブリッジホールディングス取締役兼横河ブリッジ常務、18年横河ブリッジホールディングス取締役兼横河ブリッジ社長。広島県出身。60歳。

コロナ対策のユニットハウス

建設機械レンタル大手のアクテオ(東京都中央区小沼直人社長は、新型コロナウイルス対策として、架設型ユニットハウスを改良し室内を清潔に保つ「仮設陰圧ハウス」(写真)を開発、レンタルを開始した。同ハウスは全長5.3m、幅2.1m、高さ2.3m。中に入ると、第1室の小型集じん機付エアシャワーで体に付着したウイルスなどを落とすことから、第2室に進む仕組み。室内の気圧をマイナス



2.5Pa以上に設定、換気装置で空気を循環させ、抗ウイルスのへパフィルターを通して排気することで、ウイルスを外部に流出させずに室内の清潔さを保てる。どこでも設置でき、中長期の使用も可能だ。当初は問い合わせ状況に応じて生産・保有し、全国の営業拠点で展開する予定。

キヨクメタ 小寺健史のアメリカ力報告

(前号から続く) もちろん品質が一番ではあるが、同時に、上記の足場内への休憩所の設置も含め、作業員を大切にしているように感じた。例えば、歩道は休日、自転車専用道になるが、平日は完全閉鎖して施工のためだけの通路になっている。そこに機材を設置してしまふ。



主構の維持管理状況はどうか?

当然、設置が難しい物もあるし、無理もできないだが、品質や作業員のモチベーションを考えると、最大限のことほしていると思えた。日本も近年は働き方改革などで、作業員への対応が良くなってきているが、もっと改善できるはずだ。真似できるアイデアはどんどん取り入れた



GGBの足場で現場の人たちと。左から中島、片山、右端に小寺の各氏

GGBはアメリカの橋の中でも少し異質だ。この橋だけを管理する人がいて、この橋だけを作業する人がいて、この橋を守るための塗装仕様をえたいけれど。歩道の平日閉鎖にしても、この橋を守るために、市民が我慢とまでは言えないにせよ、一定の不便さは受け入れていけるように思えた。素敵だなあ。日本もこんな風にならないかなあ。別れ際、フィリップ氏からビッグなプレゼントがあった。実際にGGBで使われたリベットである。孔食もしており、まびまなにはこれ以上の物はない贈り物になった。前日にGGBの土産屋さんでリベットのレプリカが売っていたが、買わずに良かった!

その前日は日曜だったので、レンタル自転車です。

GGBを堪能していたのである。観光名所「フィッシューマンズウォフ」の近くで借り、海沿いをきつそうとGGBへ。途中には、橋梁&まびまなアの心をおる様々な「障害物」があり、丘を登るきつさには何回か心が折れそうになりながら。



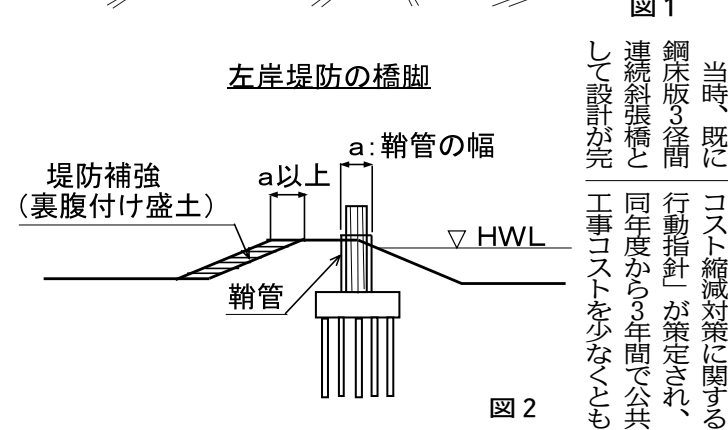
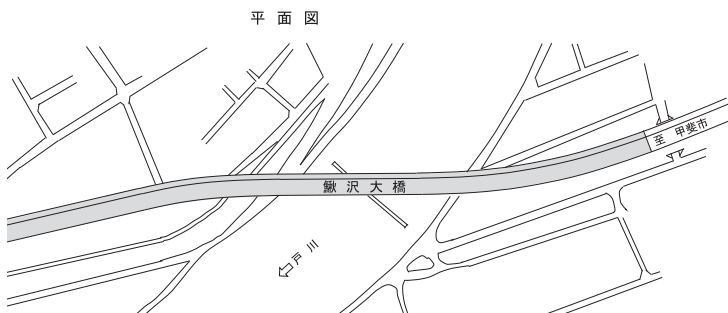
アプローチの下部でレンタサイクルが左に

到着すると、様々な角度からGGBを見ることのできた。歴史を間近で体感することもできた。これ以上の至福はない! サンフランシスコを訪れる橋梁マニアには、ぜひレンタルサイクルでGGBを満喫してほしい。運動不足のお子様達には少しこたえますが。

また、両岸の堤防上は管理用道路となっているため、橋脚の梁等が建築限界を確保しなければならぬ。支間長から河川部の形式は鋼箱桁、橋脚は鋼橋脚として主桁と剛結、梁をなすラーメン構造にして建築限界を確保した。さらに、左岸堤防の橋脚については、堤防の川面法面に橋脚を設置、HWL幅ギリギリまで橋脚を前に出して支間長を縮めた。

このため、橋脚は円形断面とし、堤防補強のため裏腹付け盛土を行なう。右岸側橋脚は用地制約があつて裏腹付け盛土ができないため、堤防法肩を犯さない、通常の位置に設置した。こうして、河川を跨ぐ支間長は87.2mまで縮小することができた。これを中央径間として河川部の形式は3径間連続ラーメン箱桁とし、側径間は端支点に負反力が生じない程度の側径間長を確保することとした。一方、陸上部での経済支間長は、上部工を連続鋼箱桁、下部工を場所打ちコンクリート杭として検討した結果、約35mになった。

寄稿 想いで端々 山梨 鮎沢大橋(中) 柳澤昭洋さん



10%以上縮減することを目指す目標が掲げられた。この橋も対象とされ、形式から見直すということなった。地質状況からすれば、基礎工の基礎面が地表から17~18mと比較的浅く、基礎は場所打ち杭で対応可能であり、下部工費はそれほど高くない。コスト削減は、上部工の支間長をいかに縮められるかにかかって来る。河川条件(図1)から川の中に橋脚は設置できない。河川幅は約60m、斜角約45度で横過するため、河川部の支間長は、少なくとも60x2=120m程度となる。

Advertisement for Tsuruga Bolt Caps (ツルガ ボルトキャップ) featuring product images and contact information.

Advertisement for Tsukuba Expressway Road Construction Co., Ltd. (州四国連絡高速道路会社) featuring a photo of a bridge and text about project completion.